(1)

2025年9月1日 発行 (通巻 506 号) 定価 100 円

### 現代座レポート No. 103

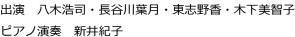
- ・「武蔵野の歌が聞こえる」公演
- ・「遠い空の下の故郷」ハンセン病療養所に生きて  $(2 \sim 3)$
- ・「星と波と風と」ビデオ上映会 (4)
- ・木村快との雑談会メモ (5)
- ・高齢者学級の講座が行われました (6)
- ・ハトノス『pica』東京-広島公演 青木文太郎 (7)
- ・お知らせ・会館日誌・会員入会・継続・寄付 (8)

NPO 現代座ホームページ http://www.gendaiza.org/

特定非営利活動法人 NPO現代座 発行責任者:木村快

〒 184-0003 東京都小金井市緑町 5 丁目 13 番 24 号 TEL 042-381-5165(代) FAX042-381-6987

### 3 日 が聞こえる」を公演します。 提野新田 月 30 日 蕳 現代座3階小ホールで「武蔵野の歌 斯小金井駅 目 押立新田 から12月2日 までの



生かして復興を進めたのです。



きました。

今回出演者4人の新しい「語り芝居」を創ります。

公演後は自

どうぞ気楽においでください。

由に語り合う場も作りたいと思います。 会場も今回は3F小ホールですから、



の歴史を知る機会にもしてほしい。 しかし、今こそこの芝居を見てほしいし、 地域の方と勉強会を重ね、

り上げ、現代座ホールで公演しました。 たため、その後の公演は出来ないでいました。 続で公演し、 年に、合唱構成劇「武蔵野の歌が聞こえる」 しかし、出演者も多く2時間近くかかる大作だっ 地元の話を芝居にしてほしい」と言われたの たくさんの方に観ていただきました。 地

創れないかと、2023年から試行錯誤を続けて たくさんの方に観ていただけるような新しい形は 極め、何年たってもうまくいきません。 し遂げたのが、府中押立村の名主、平右衛門でし 平右衛門は農民の中に眠る「助け合いの心」 しかし日照りや飢饉の中での新田開発は困難 もっと気楽に これを成 3年間連 2 0 1 4 を創 12月2日(火) 12月1日(月)

11月30日(日)

開演 午後2時 上演時間70分

公演後交流会あり

会場 現代座会館3F小ホール 定員40人予約制

参加費 一般 3000 円 小中高 1500 円

お申し込み

TEL 042-381-5165 FAX 042-381-6987

MAIL: gendaiza.ticket@gmail.com

を、四人の出演者が色々な役割を演じながら、歌武蔵野を協同の大地に変えた川崎平右衛門の物語 ピア 四人の出演者が色々な役割を演じながら、 、ノの生演奏による「歌のある語り芝居」で・

武

蔵

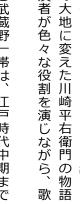
野

**の** 

歌が聞こえる\_

作物の採れない不毛の大地でした。 い語ります。 私たちの住む武蔵野一帯は、江戸時代中期まで

富士山の大噴火という大変な災害からの復興のた八代将軍徳川吉宗は、次々と起こった大地震と 守忠相に命じます。 め、荒れ地だった武蔵野台地の開発を、 大岡 .越前





### 遠い空の下の故郷

### ~ ハンセン病療養所に生きて~

ずに過ごしてきた自分が情けなく、何かしなくてはと 頼で、木村快がハンセン病元患者を取材したことが たことは国の大きな間違いだった」と小泉首相が謝罪 勝利判決がでて「ハンセン病元患者を社会的に隔離し 思うようになりました。 しを伺いました。知れば知るほど、この差別に気づか きっかけで、熊本・鹿児島の療養所で多くの方のお話 したのは2001年でした。その時医療雑誌からの依 熊本地裁で「らい予防法違憲国家賠償請求訴訟」の

ができました。そして表側からは見えなかった元患者 こうと、語りの活動を始めました。 たちの心の旅を、できるだけそのまま語って伝えてい さんたちの心の旅を知るようになりました。この友人 取材が終わってからも交流を続けて、何人もの友人

ロトキさんが話してくださったことを語ってきまし お寺や教会など、色々なところで、阿部智子さんと山 2004年から、公民館の講座や学校の人権学習、

だく事ができました。 養成課程で環境教育を学ぶ学生さんたちに聞いていた 郎先生から声をかけていただき、久しぶりに、教員 今年小金井にある東京学芸大学の環境教育の原子栄

さる方がいれば、どこにでも出かけて行きたいと思っ ています。 いかなくてはいけないと強く思いました。聞いてくだ 改めて、これはわたし自身の問題として語り続けて (木下美智子)

### 熊本市菊池恵楓園 阿部智子さんのこと



熊本地裁で撮影

どそこは病気を治す場所ではなく、高い塀に囲ま 智子さんは16歳の時療養所に入りました。 阿部智子さん 2001年 けれ

れ、死ぬまで一生懸命働かなければならない所で

ちゃんです。

トキさんは大正11年の生まれ、

本当に可愛い

おばあ

た る時くらい、そばにいてあげたかったと泣きまし 差別され、苦労をかけました。せめて息を引き取 お母さんは本当にその時息を引き取ったのです。 なった夢を見ます。三ヶ月後に判ったことですが **一母は別れを告げに来たのです。** 長い長い年月働いて、ある時、お母さんが亡く 母は私のために

あの大好きな川辺を流れます。お母さんと暮らし そうすれば、 の家が見える山に散骨してほしいと思いました。 たわが家のそばを流れます。きっと心も自由にな その時、智子さんは自分が死んだ時には、 灰が雨に溶け、子どもの時に遊んだ 故郷

もできません。

行く仕事をしました。トキさんは53歳の時、失明しま

療養所では病人や高齢者をおんぶして風呂へ連れて

す。もうあの懐かしい故郷を訪ねることも、見ること

75歳の時「らい予防法」が廃止されました。けれど

で見つけられてしまい、療養所へ入れられました。 奥に隠れ、四年間一人で暮らしますが、ついに山:

昭和28年に起こった「らい病患者狩り」を逃れて山

旅したいと思いました。 子どもの時からどこへも行ったことがないの 広い海に出たら、魚のように自由に世界中を

ります。

ながら、「女だからこそ言わねば」と原告の一人にな 判が起こった時、トキさんは「女のくせに」と言われ 社会的差別はなくなりません。国の間違いをただす裁

隅々まで、偏見を無くしてください」

で一生懸命お願いしました。国の責任で、どうか国の

「わたしはもう目の見えない老人だけれど、裁判所

鹿児島県鹿屋市星塚敬愛園

ロトキさんのこと



山口トキさんと木下美智子 トキさんの部屋で撮影

2008年

## 魂に触れる「遠い空の下の故郷」

原子 栄一郎



学生たちとユニークな授業をしている東京学芸大学で、環境教育をテーマに、20年以上前からの現代座会員原子栄一郎さん

奥底から揺さぶられました。 り上げ、その人に関する文字資料を読んだり視聴覚 考え直し、その向きを変えるという現代環境教育の げにせずに、持続不可能な社会を支えている教育を 学ぶ2年生です。1年生の秋学期から、自分を棚上 東京学芸大学で木下美智子さんと矢川千尋さんをお た。その最後が、「遠い空の下の故郷」の公演でした。 るかを振り返り見つめ直す作業を積み重ねてきまし 記述することを通して、自分がどのような人間であ 資料を視聴し、その時に感じたり思ったり考えたり 不可能な社会を象徴する典型的事件である水俣病と 根本課題に取り組んできました。具体的には、 ターとして、木村康恵さんもご一緒くださいました。 招きして「うたと語り したこと、すなわち自分の心の動きと様子を丁寧に ろな立場から深く長く関わった「一人の人間」を取 ハンセン病を考材にして、これらの問題にいろい ン病療養所に生きて~」公演会を行いました。サポー 鑑賞したのは、小学校教員養成課程で環境教育を 私を含め、 真夏の太陽が照りつける7月10日(木)の午後、 一同、うたと語りに引き込まれ、 遠い空の下の故郷~八ンセ 持続 心の

と感じた。」も興味深いし、あっという間に終わってしまったな業より心が動かされたように思う。動画や文章より「劇によって被害者の声を聴くことで今までの授

だのであって、感情の移入などを余り感じることが 文章として読んできた。つらい経験、それでも前を 学生はこのように記しています。ハンセン病資料館 たのではないかと振り返る。患者さんの〝叫び〃を 今まで以上にハンセン病問題を振り返ることが出来 来た。それだけでなく、自身が問題の当事者となり を思い知ること、今までの学習を振り返ることが出 た。その声を通して、改めてハンセン病問題の深さ 声はまるで患者さん本人の魂の叫びのように聞こえ 代座の方の"生きた"声を聞くことが出来た。その た。今回の授業は患者の生の声ではなかったが、現 いった漠然とした、第三者としての感想が主であっ なく、『大変だっただろうな』『力強い人だなあ』と 出来ていた。ただ、それはあくまで文章として読ん 向いて必死に生きる人々の姿をうかがい知ることは た。もちろん今までの学習では本人による体験談を の被害者であろう患者の"声"を聞くことはなかっ たと思う。「しかしながら、ハンセン病問題の最大 い、ハンセン病問題に対する知識がより深まってい の見学や多磨全生園のフィールドワークを事前に行 超える出来事が起こります。そのあり様を、 して考えられていたと振り返る。」 自身の内面で受け止め、真剣に向き合い、 語りの「声」が聞き手の心奥に届いた時、 当事者と 一人の 想像を

慨を覚えるひと時となりました。
「いました。木下さんは、今の学生たちはこの歌を歌いました。木下さんは、今の学生たちはこの歌を歌いました。木下さんは、今の学生たちはこの歌を歌いました。木下さんは、今の学生たちはこの歌を歌いました。木下さんは、今の学生たちはこの歌を歌いました。木下さんは、今の学生たちはこの歌を歌いました。木下さんは、今の学生たちはこの歌を歌いました。木下さんは、今の学生たちはこの歌を歌いました。木下さんは、今の学生たちはこの歌を

を至らせました。 者の言葉を紹介くださり、偏見や差別の根深さに思い人の人は私が出したものに口をつけない」という回復入所者の家を訪ねた時の話をしてくださいました。「大小さい時、全生園の近くに住んでいた矢川さんは、





## 「星と波と風と」 ビデオ上映会

6月28日(土)29日(日)午後2時から、現代座ホー6月28日(土)29日(日)午後2時から、現代座ホー6月28日(土)29日(日)午後2時から、現代座ホーん出演するミュージカルを創ったの時代は創立して20年以上経ち劇団は転換期を迎えての時代は創立して20年以上経ち劇団は転換期を迎えていました。20代の新人がたくさん入団してきた時期でもありました。は198日(土)29日(日)午後2時から、現代座ホーん出演するミュージカルを創ったのです。

ていました。

1980年代、バブル絶頂期の頃、若者たちも海外旅行に出かけた若者たちは、途中で船を乗り間違えてる平和なジャングルで、彼らは全く予想もしなかったる平和なジャングルで、彼らは全く予想もしなかったる平和なジャングルで、彼らは全く予想もしなかったるでの島に出かけられるようになりました。ミクロネシアが行に出かけられるようになりました。

です。 し、自然な暮らしを守ろうとする人々の村があったの そしてジャングルの奥には、今なお物質文明に抵抗

ました。この作品で30人以上の劇団員が育ったのです。の公演を行いました。毎年新しい出演者が舞台に立ち「星と波と風と」はとても好評で、全国で191回

ものを見ていただきました。てくださった家庭用ビデオの映像に、木村快が字幕を入れた1988年に静岡県の島田市で公演した時に、実行委員が撮っ画しました。しかし、あまり映像は残っていません。結局たい、現代座の歴史を知って貰いたいとビデオ上映会を企今上演するのは難しくても、せめて映像でも見てもらい

いう方もいました。りに顔を見せてくれた方や、はじめて現代座の舞台を見るとですが、作曲家の岡田京子さんも参加するというので久しぶ集まってくださったのは、身近な現代座会員が多かったの

思い出しました」など、色々な話で盛り上がりました。分はちょうどあの時代海外旅行に行っていた世代です。色々て「やっぱり教育は大切だと改めて思った」という意見や、「自中で若者が自分の国の戦争の歴史を知らなかったことを受け2日間とも、上映後に輪になって語り合いました。芝居の2日間とも、上映後に輪になって語り合いました。芝居の







上映後は輪になって、自由に語り合いました



作曲の岡田京子さんと木村快

# ぼくの育った時代と背景 木村快木村快との雑談会メモ

8月に話した内容のメモです。 木村快との雑談会は毎月行われています。



言っていい。だからぼくの話かに特殊な環境で育ったと通の人たちと比較すると、確な奴」と見られていたが、普ばくは昔から「ちょっと変

①戦時中の植民地育ちは、真意が伝わらず、誤解を与えているかもしれない。

早生まれなので、学校は昭和10年組だ。ぼくは昭和11年朝鮮慶尚南道・大邱府生まれだが、

なっていた。 工務店の本部となっており、職人達のたまり場にも父たちの住む大邱府に預けられていた。そこが木村として各地に移動していたため、ぼくだけ祖父や叔人学校へ上がるまでは(父が大倉土木のスタッフ)

踊っていたという。 ないときは自分で流行歌のレコードをかけ、一人でといとされたらしい。しかし、応接間には当時としと心配されたらしい。しかし、応接間には当時とし覚えるのが遅く、「この子はオシなんじゃないか」 周囲に同世代の子どもが居なかったため、言葉を

一緒に寝てたらしい。「快がいない」と心配されたとき、決まって犬小屋でに飼っていたグレイファウンド犬と一緒に過ごし、周りが大人ばっかりだったので、父が狩猟のため

②時代的には完全な国民学校世代

そして1945年(昭和20年)、敗戦になる。そして1944年(昭和16年)、突然学校制度が変わり、従れ1941年(昭和16年)、突然学校制度が変わり、従れ1941年(昭和16年)、突然学校制度が変わり、従れ1941年(昭和16年)、突然学校制度が変わり、従れ1941年(昭和16年)、突然学校制度が変わり、従れ1941年(昭和16年)、突然学校制度が変わり、従れ1941年(昭和16年)、突然学校制度が変わり、従れ1941年(昭和16年)、突然学校制度が変わり、従れ1941年(昭和16年)、

◎九州・筑豊地帯へ引き揚げ

本籍地単位に分類されていた。という。そのためどこでどの船に乗るかは、それぞれの外地からの引揚者は統計によれば550万人以上だ

揚げ。母子6人での流転生活。というので、母方の縁戚を頼って九州の筑豊地帯に引き、木村の本籍地は広島市。一面焼け野原でなんにもない

本はひどい国だと思った。
くの朝鮮人が連れて来られて働いていたからだろう。日と合唱された。筑豊は炭鉱地帯で、戦時中は朝鮮から多と合唱された。筑豊は炭鉱地帯で、戦時中は朝鮮へ帰れ!」小学校に臨時で転入させて貰うとき、「木村君は朝鮮

立島市へ

が硫黄島で戦死したという戦死公報が発行され、広島1947年(昭和22年)にやっと父・木村斎(いつき)

けで、山のように積み上げられていた。行って見たら遺骨ではなく、位牌を入れた白木の箱だ市の寺まで遺骨を取りに来るようにとの通知が入った。

だけ広島の祖父の家へ引き取られることになった。けでも広島で育てようという話になった。それでぼく広島の木村一族の間で、せめて跡継ぎとして、快だ

③新制中学

年間、中学に通うことになる。それまで小学校を出るとすぐ働けたのだが、さらに31947年(昭和22年)、義務教育の制度が変わり、

だった。 年はただ出席をとるだけで解散。すべてほったらかし年はただ出席をとるだけで解散。すべてほったらかしほとんどが兵隊帰りで、乱暴な男達だった。最初の1制中学卒業者であれば代用教師として採用されていた。 制いないので、旧 がいないので、旧 がった。

教育世代と言っていい。教育世代と言っていい。を含が出来たのは2年のの殿様、浅野公の庭園のの殿様、浅野公の庭園のの殿様、浅野公の庭園のの殿様、浅野公の庭園のの殿様、浅野公の庭園のの殿様、浅野公の庭園のの殿様、浅野公の庭園のの殿様、浅野公の庭園のの殿様、浅野公の庭園のの殿様、浅野公の庭園のの殿様、浅野公の庭園のの殿様、浅野公の庭園のの殿様、浅野公の庭園のの殿様、浅野公の庭園の



# 高齢者学級の講座が行われました

「はなみずき学級」の講座が行われました。ルで地元小金井市の公民館貫井北分館の高齢者学級1月3日(木)午前10時から12時まで、現代座ホー

公民館の担当者が独自に考えます。います。内容は各公民館の企画実行委員の市民の方と小金井市ではどこの公民館でも高齢者学級を開いて

すから90歳を超えた方もいらして心配しました。とこセリフを言ってみようという企画です。高齢者学級で現代座に行ってホールの舞台に立って、照明を浴びて「演劇体験してみよう」という講座をやってみました。昨年公民館貫井北分館の方に声をかけていただいて

ろが皆さんす

だいな、と た。できたら た。できたら た。できたら た。できたら た。できたら た。できたら た。できたら

として参加しました。

は、「演劇体験してみよう」の講座を今年度もや
を作いとご連絡をいただきました。昨年よりもっとい
のました。現代座のメンバーも昨年より多くスタッフ
のました。現代座のメンバーも昨年よりもっとい
のました。昨年よりもっとい
のました。昨年よりもっとい
のました。昨年よりもっとい

ことが無い人たちでした。ので、初めての方たちです。ほとんどが現代座に来た教は同じ教室を2年連続して受講することはできないて来ました。人数は昨年と同じ30人ですが、高齢者学7月3日、暑い中を受講生の皆さんが続々と集まっ

に稽古しました。

現代座メンバーがそれぞれのチームに入っていっしょわせて、誰がどの役をやるかを決め、読んでみます。た。チームごとに集まって、自分たちが読む場面にあた。チームごとに集まって、自分たちが読む場面にあた。チームごとに集まって、自分たちが読む場面にあまず、簡単に現代座の紹介をし、さっそくベテランまず、簡単に現代座の紹介をし、さっそくベテラン

八ラ八ラしたり。とても盛り上がりました。八ラ八ラしたり。自分たちの場面を読み終えてホッと台本を読みます。自分たちの場面を読み終えてホッとして客席に戻ろうとすると、長谷川先生に「ちょっとしたり、張り切ったり。見ている方も大笑いしたり、張り切ったり。見ている方も大笑いしたり、ひっています。自分たちの場面を読み終えてホッと台本を読みます。自分たちの場面を読み終えてホッと台本を読みます。自分たちの場面を読み終えてホッと台本を読みます。自分たちの場面を読み終えてホッと台本を読みます。自分たちの場面を読み終えてホッと

たことが伝わってきました。など、皆さんの感想もとても楽しく、喜んでくださっと思って選んだけど、別の役にしておけば良かった」舞台に立って楽しかった」とか「この役なら楽そうだ舞台に立って楽しかった)とか「この役なら楽そうだ

いと思いました。 (木下 美智子)地域の方たちと創造活動が出来るのは本当にうれし



### ハトノス『Pica』 東京 青木 文太朗 広島公演

2025年6月~7月、ハトノス『Pica』東京 広島公演を実施しました。

群像劇です。2024年6月に現代座会館で初演を行 過去の出来事と、それらの現代での語られ方に注目し い人、語れない人、そうした様々な人々の姿を描いた 訟」を題材に、原爆についての記憶を語る人、語らな とが多く、今回上演した『Pica』は、「黒い雨訴 きました。特に私の出身地である広島の歴史を扱うこ ながら「歴史と記憶」について扱った演劇を製作して て運営している演劇団体であり、これまで戦争などの ハトノスは私・青木文太朗が現代座の活動と並行し 様々な応援の声をいただいて、今夏再演すること

> う地でもこの演劇を上演したいと思い、広島公演も企 東京だけでなく、「黒い雨」の記憶を持つ、広島とい となりました。そして、再演をするにあたり、今回は

る、と思い、広島行きを決断しました。 いました。それでも、この作品ならば広島で上演でき たちに見られるということへの緊張感も当然予想して でした。広島には「当事者」がたくさんおり、その人 ら、私個人は広島公演にあまり前向きではありません の演劇を上演することに意義を感じていたことなどか つかはあったのですが、東京という地で広島について かねてから「ハトノスの広島公演」を望む声もいく

て思いました。

ました。高校生から「黒い雨訴訟」の元原告まで、様 り、落ち着いた雰囲気で広島公演にも臨むことができ でしたが、東京でしっかり公演を重ねられたこともあ 出演者も半分以上が旅公演は初めてというメンバー



↑ハトノス『Pica』舞台写真(広島公演)

で生きるということで、生活の中に「原爆」が少しず 像していた以上に、皆様に素直な視点で『Pica』 視線」も、東京の時より一段と前のめりなものを感じ じ、この地で、この作品を上演できてよかったと改め い、冷静な視点のようなものをいただいた感想から感 つ存在するからこその、「原爆」への割り切れない思 広島で暮らすということは、原爆の記憶と隣り合わせ という作品を見ていただけたな、と実感しています。 ました。身構えていたところもありましたが、私が想 々な年代の方々が集まった客席から感じる「劇を見る

だきました。現代座のメンバーも、東京・広島ともに 様々な形で公演を支えてくださり、感謝しかありませ ていました。 ンドは現代座なんだなと、広島の劇場でしみじみ感じ ん。広島は地元ではありますが、演劇のホームグラウ 小山美砂さんに、昨年に引き続いてサポートしていた では、「黒い雨訴訟」を追うフリージャーナリスト・ たちに支えられ、何とか企画を完遂できました。広島 ハトノスとして初めての旅公演でしたが、様々な人

で思い出すような時間になれていたらいいなと思いま りました。出演者もスタッフもお客さんも、この公演 にかかわった人たちにとっても、これから先、どこか この夏の経験は、私にとってとても大切な時間とな

活動を続けて行きますので、応援していただけると嬉 広島という地で上演する意義のあるものを作れるよう 次は10月に、リーディング公演『始発まで』を行い 今までの作品に背を向けないよう、そしてまた

演します。

始発まで』

は広島の被爆復興

電 車

および現

ハトノスがリーディング公演『始発まで』

を上

### お知らせ

TEL: 042-381-5165 FAX: 042-381-6987

品です。

2023年に

代でのその歴史を伝える取り組みを題材にした作

リーディング公演を、

新たな出演者と共に上演し 一般参加者を交え実施した

現代座会議

木村快との雑談会」

ます。

回同様、

作中いくつかのセリフを読んでいた

ハトノス・リーディング公演 **『始発まで**』

脚本・演出〇青木文太朗

出演:鈴木 千夏、環 幸乃、町田 大征、徳山 英伸、渡辺 啓明

<公演日程>

7 月 19 日 【二階サロン】

緑町第2町会役員会

10月24日(金) 19時15分~

10月25日(土) 13時~/18時~

10月26日(日) 14時~

<会場>

現代座会館地下ホール

<料金>

一般…3,000円

学生以下…2,000円 (前売り・当日共通)

8月5日~10日

19~8月4日 4 5 14 日

「劇団アルファー」稽古 「パン・プランニング」 「劇団青うさぎ」公演 おぼんろ」稽古

稽古

「ジャカバルズ」稽古

はなみずき学級」



### ←ハトノスHP

7月3日

公演詳細・予約など こちらからどうぞ

30 28 日 · 29 日

「星と波と風と」ビデオ上映会

根本銀二監督・映画上映会

「ハトノス」稽古・公演

6月1~22日

現代座ホール

ら詳細を確認いただき、 だく一般参加者を募集します。ハトノスの扱う「記 組みです。 を様々な形で客席とも共有していくための取 ご興味ある方はぜひとも団体HPか お気軽にご応募ください。

> 現代座会館 6月~9月 活動日誌

6月8 現代座レポート10号」発送作業

8 月 2011 日 日 7月7日 29 20 16 10日日日 28 18 日 日 第3木曜日「緑町ふれあいサロン」 現代座会議 学芸大・ハンセン病の語り 現代座会議 屋上・駐車場防水工事開 「木村快との雑談会」 木村快との雑談会\_ 平右衛門顕彰会」 総会に参

【三階小ホール】

6月2日8日16日30日 7月20・29日8月20日 「ポラー 7 月 27 日 毎火曜・木曜日 隔水曜・木曜日 津田リトルコンサート 朗読教室 ヨガ教室 小金井女声合唱団

NPO現代座の会員になってください

- ●年間4回発行の活動レポートをお送りします。
- ●会員による企画行事をお知らせします。
- ●お申し出があれば、上演舞台の録画 D V Dをお送りします。

★年会費 一般会員 (現代座レポート購読料を含む) 3,000円 協賛会員 10,000円(1口以上)

正会員 10,000円 郵便振替口座番号 00110-7-703151 NPO現代座